

ロックウエル推薦図書 2017年8月
「ここからはじまる」はらだみずき

先月は今春の私立中入試で出題された小説をとりあげました。今月は私立高校です。表にない高校は、小説ではなく、随筆を出題しました。公立高校入試では（私の記憶する限り）小説は出題されていません。場面の理解や登場人物の気持ちなどは古文で問われます。

学校	入試	作品	作者
明訓	専・一	ここからはじまる	はらだみずき
北越	専願	羊と鋼の森	宮下奈都
	一般	神様は五線譜の隙間に	瀬那和章
第一	専・一	裸の王様	開高健
文理	専願	ブレノワール	森絵都
	一般	夕日へ続く道	石田衣良

北越は二作品とも音楽をテーマにしたものでした。どちらも魅力的なのですが、二月に「蜜蜂と遠雷」を取り上げたところなのでまたの機会に。文理の「ブレノワール」は大人の小説で、高校入試では異色でした。「夕日へ続く道」は青春小説のど真ん中を行く作品。

第一の「裸の王様」は一九五八年に発表された開高健の芥川賞受賞作品で、各種入試で数えきれないほど出題されてきた定番作品です。愛情に乏しく抑圧的な家庭環境で育てられた小学生の太郎は、自分を表現することができず、絵が全く描けません。そんな太郎の精神を解放するために奮闘する絵画教室の教師の物語です。教えるのか、自発性を尊重するのか、絵画教育のあり方がもう一つのテーマになります。

子育て・教育の永遠のテーマ

「ここからはじまる」はサッカー少年と父親の物語ですが、「裸の王様」とテーマが似ています。サッカーにしても絵画にしても、周囲が積極的にかかわるのか、それとも、子どもの気持ちや自主性を尊重するのか、指導者は教え導くのか、それとも、子どもの気づきをうながすのか。教育も全くそうですね。文科省はこういった議論をする有識者会議に予算を何億円使っているかわかりません。私は、叩き込むのが自分の仕事だと割り切っていますが(笑)。

今回はこの(永遠の)テーマを極めて現代風に描いた「ここからはじまる」を紹介しましょう。



「ここからはじまる」
はらだみずき
新潮社
定価：1,500円＋税

サッカーノートの誕生

小三の「勇翔」が所属するFCバンビーノの出場する大会を久しぶりに見た父親の「拓也」は、一試合十分のミニゲーム五試合、計五〇分中、たったの一分しか出場機会がなかった息子に落胆します。

高校時代サッカー部に所属していた拓也は、勇翔が小一でサッカーを始めることになったとき、母親

の意向を退け、地元クラブではなく大会でも実績のあるクラブに入れたのでした。

拓也は、やる気のみられない勇翔にJ1のU-12のセレクションを受けさせます。小四になるにあたり、自分のレベルをわからせるショック療法でした。やはり、一次予選で落とされた勇翔は初めて涙し、本気でサッカーに向き合うと誓います。勇翔が自主的に書き始めたサッカーノートのタイトルが「ここからはじまる」です。

親子の成長

しかし、ノートは二日と続かず、練習試合の様子も相変わらず、自主練の報告も嘘だったことが発覚して拓也の怒りが爆発します。帰宅しない息子を探しにいった拓也は息子と共に歩もうと思うのです。

親子練習の成果が出てきたのに、勇翔が喘息を発症します。少しずつ成長し、主力メンバーの移籍もあり、勇翔はレギュラーに定着します。拓也も本当に父親になった気持を味わいます。息子に夢中になるあまり仕事のミスが重なった拓也は、距離を置かざるを得なくなり、必要なときに確かなアドバイスを与えるという父親になることができました。

子育て世代へのエール

「はらだみずき」さんはサッカー小説で人気なので若い方を想像していましたが、一九六四年生まれで、デビューは四〇代、本作品は五十歳での発売です。先輩世代の作家からの、子育て世代への愛情あふれるまなざしが印象的でした。

ロックウエル新大駅前教室 長谷川玲